

北澤一伯 (きたざわかずのり)



北澤一伯《書物と空間》2019年：

多摩美術大学アートテーク gallery / 東京 / TAMAVIVANT II

書物を知の体系の蓄積として捉え、場所に凝固する物質として美術の文脈に仮／編成する試み。地表より土中を想像する時、そこには暗黒が詰まっていると感じます。それに、未読の書物というものは、歴史的思考や物語が、あたかも暗闇に内蔵されているかのようです。書物を場所に差し込み、間隙を組み立てていく状況を光の照射に譬えるならば、この試行は、書物と空間による時代の影を生み出すことになると考えています。

(北澤)

1949年、長野県生まれ。80～96年、《圍繞地》を発表。94～99年、アートキャンプ白州・風の又三郎(北杜市/山梨)参加。94～08年、《「丘」をめぐって死んだ水うさぎ》を連作。94年、立ち上がる境界展(辰野町郷土美術館・旧日本通運事務所/長野)。96年、松澤宥とのコラボレーション(旧日本通運事務所)。2000年～《脱構築 ころの容器》連作。03年～NIPAF参加。09年、所沢ビエンナーレ引込線(西武鉄道旧所沢車両工場/埼玉)参加。16～18年、個展(アンフォルメル中川村美術館、アートスペース FLATFILE、からこる坐/長野)。19年、TAMAVIVANTII(多摩美術大学アートテークギャラリー)。